

文部科学省

令和7年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）」

## 文理融合型教育による「いまりん6次化」実践プログラム

### 研究開発実践報告書（第3年次）



令和8年3月  
佐賀県立伊万里実業高等学校

(表紙 : i6-Project)

1. MAKE Smart Internet (基盤整備・環境との接続)
2. MAKE Smart Interactive (関わり・対話・能動性)
3. MAKE Smart Intelligence (思考・深化・創造)

## I はじめに

伊万里の実り豊かな大地と、脈々と受け継がれてきた伝統。この誇るべき地域資源に「ビジネスの視点」を加え、新たな価値の創出を目指した「いまりん6次化」実践プログラムが、最終年度を迎えました。本プログラムの完結に当たり、これまでの挑戦の歩みを振り返るとともに、関わってくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。

本プログラムは、単なる商品開発の模倣的取組ではありませんでした。生徒たちは、5学科が連携し、生産（1次産業）、加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）を一体化させる「6次産業化」という高度な課題に真正面から向き合ってきました。

「総合的な探究の時間」を全学年で週1時間実施し、講演会や地域理解学習を積極的に取り入れることで、未来の地域社会を担う視点を養うことを目指しました。昨年度より連携しているNPO法人との協働に加え、今年度は竹細工職人の指導のもと、技術伝承を目的とした作品制作にも取り組みました。

これらの体験的学習を通して、生徒は地域資源の本質的価値を再認識するとともに、伝統と革新を結び付ける視点を培うことができました。

ソーシャルメディアを活用した情報発信は広がりを見せ、長崎大学薬学部の学生より、竹を活用した農薬開発に取り組みたいとの申出がありました。現地視察や本校での意見交換を重ねることで交流を深めています。竹の活用は、地域課題の解決に資する可能性を大きく秘めていることを実感させるものでした。

このように、本取組は地域内にとどまらず、大学との連携へと発展し、実践的な学びの場をさらに拡張する契機ともなりました。

本プログラムはここで一つの区切りを迎えます。しかし、生徒がこの3年間で培った「課題を見だし、解決策を構想し、実行へと移す力」は、進路の如何を問わず、今後の人生を支える確かな基盤となるはずです。

予測困難な現代社会において、ゼロから一を創り出す経験を重ねた若者の存在は、地域、そして我が国の将来にとって大きな希望であります。たとえプログラムの形が変わろうとも、本校に根付いた「地域とともに歩む」という理念、そして飽くなき挑戦のDNAは、確実に次代へ継承されていくことを期待します。

最後になりましたが、本プログラムの趣旨に御賛同いただき、多大なる御指導と御協力を賜りました農家、協力企業、NPO法人、自治体の皆様、そして温かく見守ってくださった保護者の皆様に、心より御礼申し上げます。文部科学省指定事業は終了いたしますが、放置竹林問題の解決は本校の今後の重要な柱であり、将来的には伊万里を支える新たな産業へと発展することを期待しております。

令和8年3月吉日

佐賀県立伊万里実業高等学校  
校長 牧瀬 省吾

## 【目次】

I	はじめに	
II	令和7年度研究開発の概要	
	令和7年度研究開発実施計画	1
	(1) 伊万里実業高等学校を取り巻く状況の分析	
	(2) 本事業に取り組む必要性	
	(3) 本事業を実施する目的	
	(4) 創造的教育方法実践プログラムにおける目標	
	(5) 育成を目指す資質・能力	
III	カリキュラム開発に係る取組の報告	3
1	外部講師を活用した課題研究の取組「ビジネスプラン」について	
	(1) 課題研究「ビジネスプランコース」について	
	(2) 外部講師による指導	
	(3) 今年度の各種コンテストにおける成果	
	(4) 今年度を振り返って	
	(5) 今年度の成果と課題	
	(6) 資料	
2	企業訪問	7
3	愛農祭（生産物販売会）	11
4	キャリア教育研修	12
5	キャンパス間交流学習	13
6	課題研究発表会	17
7	5学科共同課題研究 「地域の放置竹林問題解決に向けたプロジェクト（竹プロ）」	21
8	他校との連携事業	23

IV	関係機関等との連携協力体制の構築に係る取組の報告	
1	運営指導委員会	24
2	カリキュラム委員会	26
3	学科横断・連携チーム連絡会	26
4	先進校視察報告	30
V	補足資料	30
VI	申請校の概要（令和7年度）	44
VII	文理融合型教育による「いまりん6次化」実践プログラムの3年間のイメージ図	45
VIII	令和7年度成果概要図	46

## II 令和7年度研究開発の概要

### 令和7年度研究開発実施計画

#### (1) 伊万里実業高等学校を取り巻く状況の分析

佐賀県西部に位置する伊万里市は、江戸時代には陶磁器「古伊万里」、大正～昭和初期には、石炭の積出港として栄えたが、現在は伊万里湾総合開発による造船・IC・木材関連産業等の他、農畜産業が盛んである。しかし、5万人強の人口は年々減少傾向であり、産業の衰退や地域活性化等の課題も多い。また、周辺地域には高等教育機関がなく、若年者層（十代後半～三十代前半）は転出傾向が顕著である。

佐賀県立伊万里実業高校は、佐賀県立高等学校再編整備により、伊万里農林高等学校（現、農林キャンパス）と伊万里商業高等学校（現、商業キャンパス）が統合され、2019年4月に、農業科及び商業科を持つ専門高校として開校した。統合後もそれぞれの校舎を使用し、農林キャンパスでは生物科学科（40名）・森林環境科（30名）・フードビジネス科（40名）、商業キャンパスでは商業科（40名）・情報処理科（40名）の1学年190人が学んでいる。

#### (2) 本事業に取り組む必要性

##### ① 文理融合型の学科・教科等横断による継続的な専門教育の実践

本校では、特色ある教育活動として「農業科及び商業科のコラボレーション（連携・共同作業）による教育活動」を掲げ、農業科による加工品のブランド化及び商業科による販売促進活動等、体験的な教育活動を展開している。フードビジネス科では、1年次に両キャンパスで両学科の専門科目を学習し、「生産・加工・流通・販売」を一貫して学んでいる。しかし、両キャンパスの地理的隔たりも絡んで、3年間を通じての学科横断的な学習ができていない。

また、商業科の生徒が農業科の専門教科を学ぶ機会はほとんどない。農産物生産・食品製造（加工）・マーケティング等において、生徒自身の専門科目を深く探究すること以外にも、オンラインを活用した校内授業参観にて他学科の学習内容を知ることや両学科で一般科目（地歴公民、数学等）を一緒に学ぶことで、多様な幅広い視点を持つことができ、課題発見・解決能力の育成に寄与することができる。

##### ② 地域資源を活用した「6次産業化」実践に対応できる人材育成

地域に根ざした県立高校の価値向上を目的とし、農作物や加工食品等の生産・販売に留まらず、伊万里市の地域資源（陶磁器・歴史的建造物・伝統行事等）を組み合わせることで、1次産業品の付加価値向上に伴う1次産業従事者の所得向上・耕作放棄地の減少・後継者育成の他、観光促進や空き店舗対策等の身近な社会的課題を解決できる商品・サービスの企画・実践に取り組む人材を育成する必要がある。本校を農業法人組織と見立て、農業科・商業科の生徒が協働してビジネスプランを策定し、農作物や森林の栽培（1次）・食品や製材品の生産（2次）・販路開拓や販売（3次）までを生徒が実践する。ビジネスプランと収支実績を比較し、各産業の収支構造や経営課題を分析・評価・対策することで、6次産業化人材としての基礎的な知識と能力を育成できる。そして、学識経験者・実務家・行政等からの指導・助言を踏まえて、本校及び地域（地元企業）の役割分担を明確にし、本校の6次産業化人材育成カリキュラムを構築する。

### ③ 多様化する進路ニーズに適応した学びへの対応

従来の農業・工業・商業高校では、就職に有利な検定資格の取得に力を入れる職業教育が中心であったが、近年においては多様化する進路ニーズに適応した学びが求められている。本校生徒の進路希望に関しては、進学を志望する生徒が増加するなど、資格取得以外にも専門分野における学術研究に必要な基礎的知識・技術の習得やグループワーク等が求められている。そのため、遠隔・オンラインを通じた高等教育機関との連携や専門家・実務家を中心とする外部有識者からの学びは生徒のモチベーションを高める有効な手段の一つでもある。

### (3) 本事業を実施する目的

佐賀県は農畜産業・窯業・製造業が盛んな地域であり、伊万里市も地域活性化に向けた6次産業化に注目し、その人材の育成にも力を入れているところである。一方、本校は農業と商業が統合された専門高校であり、地理的に隔てられた2つのキャンパスの有機的な連携に基づく、「学科・教科等横断による継続的な専門教育の推進」が課題となっている。本事業を通じて、本校生徒が「育成を目指す資質・能力」を獲得できる教育方法・カリキュラム・指導体制を構築するとともに、他都道府県の自治体や高等学校でも類似の課題を抱えていると推測できることから、佐賀県はもとより、全国の専門高校の新しい教育モデルとしての役割を果たすことを目的とする。

### (4) 創造的教育方法実践プログラムにおける目標

- ① 本校を「農業法人組織」と見立て、①校内授業参観や一般科目の共同学習、②両学科協働によるビジネスプラン策定、③各学科の専門教育の実践（生産・加工・販売等）を通じた文理融合型の学科・教科等横断による「6次産業化人材の育成」に資するカリキュラムを開発する。
- ② オンライン型ビジネス教育教材を活用して、6次産業化を実践するための商品企画・マーケティング・収支計画に基づくビジネスプランを策定する。
- ③ オンラインを活用して、高大連携による大学訪問・講義受講・メタバース体験・大学生との協働PBL等に取り組み、専門的な教育を受けられる機会を設ける。

### (5) 育成を目指す資質・能力

1次産業従事者の後継者育成や観光促進等の社会的課題解決に両学科が協働で取り組むことで、従来の活動範囲（学校）や知識範囲（教科書）を超えて、地域（地元住民・企業・行政等）との実践的な連携（ビジネス）を通じて、「6次産業化人材の育成」で、特に重要な「課題発見・課題解決能力」・「他者との協働・コミュニケーション能力」・「リーダーシップ力」を育成する。

### Ⅲ カリキュラム開発に係る取組の報告

#### 1 外部講師を活用した課題研究の取組「ビジネスプラン」について

##### (1) 課題研究「ビジネスプランコース」について

###### ① コース概要

本コースは、本校商業キャンパス3年生2クラスを対象とした選択科目「課題研究」の一つのコースである。商業デザインコース、プログラミングコース、会計ビジネスコースと並ぶ位置付けであり、開設6年目を迎える。今年度は20名の生徒が選択している。

開設の契機は、中小企業庁主催「起業家プログラム実施支援事業」への参加である。開設2年目までは、複数の外部講師の協力のもと、本校教職員が中心となって運営してきた。開設3年目からは、コーディネーターである坂口氏の支援を受けた授業展開を開始し、今年度で4年目となる。

###### ② コースの目的

本コースの目的は、1・2年次に学習した商業科目を総合的・実践的に活用し、専門性を一層深化させることである。主体的に思考し、知識を応用する過程を通して、次の5つの力の育成を目標としている。

- 1 「課題発見力の育成」
- 2 「論理的思考力の強化（ロジカルシンキング）」
- 3 「財務経営分析の基礎理解」
- 4 「ビジネスプラン作成能力の習得」
- 5 「発表力の向上」

###### ③ コースの授業内容

導入期には、思考の基礎を定着させるためケーススタディを実施している。ロールプレイング型ソフトを活用して課題解決に取り組み、その成果を生徒自身が発表する。その後、ビジネスアイデアの立案・具体化を行い、プレゼンテーション資料の作成および発表へと発展させている。完成したプランは各種コンテストへ応募している。なお、コンテスト参加は生徒の目標を明確にするための手段であり、本コースの主たる目的ではない。

##### (2) 外部講師による指導

###### ① 外部講師依頼の効果

本事業のコーディネーターである坂口氏には、実社会における豊富な経験と視点に基づいた指導を行っていただいている。ビジネス教育において本校教職員のみでは補いきれない専門的・実践的知見を提供いただいている。

これまでも単発的に外部講師による講演や講義を実施してきたが、受講直後は生徒に良い刺激となる一方で、時間の経過とともに学習内容や思考法の定着が難しいという課題があった。年間を通じた継続的かつ定期的な支援をいただくことで、意識付けにとどまらず、その後の学びへとつなげる指導が可能となり、教育効果の浸透が深まった。

坂口氏には本校の教育方針や趣旨をご理解いただき、積極的に協力いただいている。その結果、生徒と地域社会との接点が増え、生徒が提案するビジネスプランを通して地域社会に貢献できる人材育成につながっている。

## ② 授業の様子

坂口氏のスケジュールの都合上、オンライン形式で実施する場合もあるが、本事業の支援により対面授業の回数も増加した。生徒の状況に応じて授業計画を柔軟に調整いただき、授業後の打合せを重ねながら改善を図ることで、内容の充実につながった。

年度当初から実社会に即した話題に触れる機会が毎時間設けられ、生徒の学習意欲向上につながった。また、簿記やマーケティングなど商業科目の重要性についても繰り返し言及いただくことで、本コースの意義が明確になった。

令和7年度は年間計画に基づき実施するとともに、新たな取り組みも展開した。オリエンテーションでは本コースの目標や意義を丁寧に説明し、学習に集中できる環境づくりから開始した。導入段階からケーススタディを取り入れ、主体的思考と発表の機会を設けた。教材には坂口氏作成の「Think Base」(パソコンソフト教材)を活用している。高校生に適した内容・分量で構成されており、高い教育効果が認められる。

今年度も全国産業教育フェアビジネスプランコンテストへの応募を希望する生徒を対象に、夏季集中講座を実施した。5名が参加し、夏季休業中の午後5日間を活用して取り組んだ結果、全国大会出場を果たした。

多肉植物の販売プランでは、本校生物科学科および有田工業高校セラミック科と連携し、商品化を実現した。11月の販売会では盛況を得た。

学校間交流としては、佐賀商業高校とのオンライン交流を継続するとともに、新たに兵庫県立武庫之荘高校および岐阜県立土岐商業高校とオンライン交流を実施した。武庫之荘高校とは「事業承継」をテーマに議論を行い、土岐商業高校とは「陶磁器産業(伊万里焼・美濃焼)」をテーマに2回の討議を実施した。他校の先進的事例を学ぶことで、新たな発想や改善の視点を得る機会となった。

坂口氏の継続的かつ高度な指導により、生徒は思考力および表現力を着実に向上させることができた。

## (3) 今年度の各種コンテストにおける成果

- |                   |               |         |
|-------------------|---------------|---------|
| ① 全国産業教育フェア福島大会   | ビジネスアイデアコンテスト | 奨励賞     |
| ② 佐世保 START UP 99 |               | 本選出場 2名 |

## (4) 今年度を振り返って

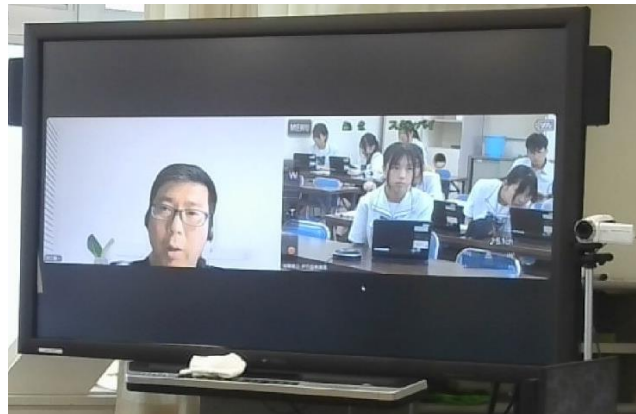
坂口氏のご指導は今年度で4年目を迎える。本事業の支援により対面授業の機会が増え、相談体制も整備された。実践的知識とスキルを重視する本コースに適した指導を実施いただいた。

また、本授業の趣旨をご理解の上、生徒に商業科目の必要性を継続的に示していただいたことは、専門科目への理解深化に大きく寄与した。

さらに、県外高校との学校間交流も実現した。事前調整等を担っていただいたことで円滑な実施が可能となった。今後も本取組を継続、発展させていきたい。



対面授業の様子



オンラインによるアドバイス



全国産業教育フェア福島大会  
ビジネスアイデアコンテスト 発表



表彰式  
奨励賞

(5) 今年度の成果と課題

今年度は、オンラインを活用することにより、年間を通じて専門的知識を有する講師による継続的な指導が可能となった。加えて、対面授業の回数も増加し、よりきめ細かな指導体制を構築することができた。

ビジネスプランの立案においては、段階的かつ体系的な指導を受けることで、内容の充実したプランの作成が可能となった。また、学校間交流を実施することで、同一内容の講義を同時に視聴する機会を設けることができた。他校生徒の存在は、生徒にとって大きな刺激となり、学習意欲の向上につながった。

受講当初は興味を持って取り組みながらも、アイデアが具体化できない、構想がまとまらない、あるいは発表への不安から途中で諦めかける生徒も見られた。しかし、継続的な指導と支援により課題を克服し、最終的にはプランを完成させ発表に至ることができた。これらの過程を通して、受講生の着実な成長が認められた。

一方、課題としては、取り組みを継続的に実施していくためには、安定的な予算措置等の裏付けが必要である点が挙げられる。本事業終了後の運用体制については、来年度より具体的な方策を検討し実践していく必要がある。

(6) 資料

「お菓子の神様」はバズりたい！！

～「21世紀のシュガーロード」の始まりは、伊万里から～

生徒プレゼンテーション資料より

佐賀県の魅力と地域課題

～「お菓子の神様」を後世に継承するために～

○佐賀県は「お菓子の街」

- ▶伊万里市：お菓子の神様（中嶋神社）
- ▶シュガーロード(16世紀)：長崎市～佐賀市～北九州市
- ▶お菓子製造(明治以降)：森永製菓、江崎グリコ、竹下製菓、北島、村岡総本舗 等



○佐賀県の地域課題

「お菓子との奥深い関係」という魅力的な観光資源を活用すること

伊万里

5

活用する地域資源

■中嶋神社 (古事記712年、日本書紀720年)

■その昔、垂仁天皇の命を受けた栗祖・田道間守は、大陸から不老長寿をかなえる「非時香果」の実(みかんの原生種)を持ち帰り、伊万里の地に最初に植えたことから、「伊万里は菓子発祥の地」と言われています。

■しかし、帰国時には、垂仁天皇はすでに他界しており、田道間守は悲しみのあまり息を引き取りました。7世紀初頭、田道間守の故郷である兵庫県豊岡市に、中嶋神社が建てられ、1956年には伊万里にも分祀されました。

伊万里実業高等学校



地域課題の解決策

■課題解決策 1

▶「お菓子の神様」の歴史・由来(史実)を後世に継承

- ① 現代に甦った「お菓子の神様」と7人の家来が活躍する短編物語の制作
- ② キャラクター制作やSNS等を通じた観光モデルプランを企画。

■課題解決策 2

▶全国にある中嶋神社8箇所を巡る周遊ツアーの実施  
「21世紀のシュガーロード」の実施(※将来的な構想)。

伊万里実業高等学校

8

短編物語の制作

■お菓子の神様と伊万里のお菓子巡り(伊万里菓子組合7店舗)を意図した短編物語を制作。

■短編物語(以下要約)

かつて橘和菓子と奉納されてきた「お菓子の神様」。時代とともに参拝者が減るなか、神様は「スマホ」を手に取りました。目指すは「お菓子の街・伊万里」を全国に発信すること！家来たちは町の甘味処を巡り、伝統と創意が光るスイーツを発掘。伊万里焼饅頭、ふんわりくつきい、かりんとう饅頭…。どれも地域の風土と職人の心が詰まった逸品ばかり。やがて神様は高校生たちと協力し、SNSで「推しスイーツ」を発信。その輪は広がり、「お菓子祭り」は大盛況に！神様と家来たちは今日も、伊万里の甘い魅力を全国へ届けています。

—あなたも、「お菓子の神様」のまち・伊万里へ訪れてみませんか？

伊万里実業高等学校

10

観光モデルプラン(1泊2日ツアー)

**1泊2日ツアー**

■最少参加人数：10名様  
■乗車：(朝) 西ノ宮 全乗員：1名同行

**1日目**

9:30 福岡空港集合(福岡空港)  
12:00-13:00 昼食(伊万里ちゃんぽん)  
13:15-14:00 中嶋神社  
14:00-16:00 伊万里菓子めぐり  
16:30-20:30 夕食  
ホテル泊

**2日目**

朝食(ホテル)  
9:00 ホテル出発  
9:30-12:30 伊万里焼饅頭体験  
昼食(大川内山)  
13:30-14:30 小城市(小城市山)  
15:00-16:00 食育市(れぼろ3)  
17:00 福岡空港解散(佐賀空港)

**伊万里菓子めぐり**

■季節限定イベント  
【春】獻饗祭(4月下旬)  
【春】フォデュParty(5月上旬)  
【秋】もちもちParty(10月上旬)  
【秋】ハロウィン(10月下旬)  
【冬】もちつき(1月中旬)  
焼きマシュマロParty(2月中旬)

12

キャラクター：お菓子の神様と7人の家来



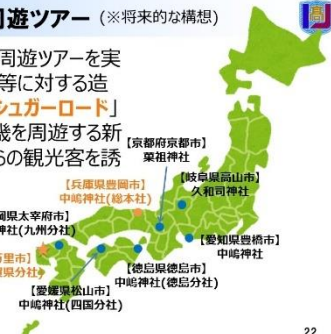
伊万里実業高等学校

18

「21世紀のシュガーロード」周遊ツアー (※将来的な構想)

■全国にある中嶋神社8箇所の周遊ツアーを実施して、日本の菓子文化や茶道等に対する造詣を深めるとともに、「21世紀のシュガーロード」と名づけた九州・四国・東海・近畿を周遊する新たな観光ルートとして、国内外からの観光客を誘致する。

■全国の中嶋神社近隣の高校生と連携することで、地域間の協力体制を構築していきたい。



伊万里実業高等学校

22

収支計画

区分	参加人数	参加人数	参加人数
【売上】			
観覧券	20	14	10
グッズ	25,000	25,000	10,000
ツアー売上	900,000	607,200	400,000
ツアー旅行代	12	16	2
売上差	11,022,000	11,105,200	996,000
【売上】			
観覧券(10名) 25名定	100,000	100,000	80,000
乗車料	50,000	50,000	50,000
小計	115,200	80,640	57,600
観覧券	20,000	24,000	10,000
旅行代(旅行代)	50,000	35,000	25,000
小計	140,000	99,000	70,000
【売上】	85,000	20,500	42,500
観覧券(観覧券)	300,200	437,140	335,100
売上総利益	475,800	300,560	162,900
売上総利益率	43.76%	37.30%	32.71%
仕入高	5,722,400	6,994,240	670,200
仕入高	5,229,600	4,160,960	325,800

伊万里実業高等学校

32

## 2 企業訪問

### (1) 目的

講話を通じて育まれた多様な視点や社会的スキルを、課題研究において現実的に理解し、客観的な価値を見出す一助とする。

(2) 対象学年：1年生と2年生 各科4名ずつ希望者を募り、合計40名

(3-1) 訪問先（令和7年9月26日（金）・1年生希望者）

- ・株式会社オプティム
- ・伊万里ケーブルテレビジョン株式会社

#### 【株式会社オプティムでの研修】



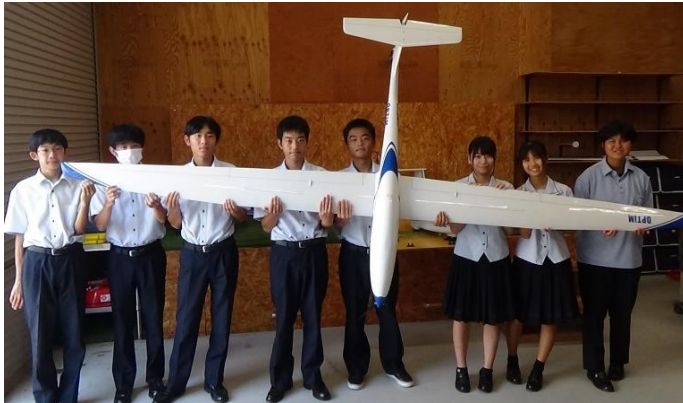
#### 【伊万里ケーブルテレビジョン株式会社での研修】



(3-2) 訪問先（令和7年9月26日（金）・2年生希望者）

- ・株式会社オプティム
- ・日本ディスク株式会社伊万里
- ・JA 伊万里本所

【株式会社オプティムでの研修】



【日本ディスク株式会社伊万里での研修】



【JA 伊万里本所での研修】



(3-3) 訪問先 (令和7年10月3日(金)・1年生と2年生の希望者)

- ・株式会社東洋新薬鳥栖工場
- ・株式会社インフォグラム伊万里開発センター
- ・株式会社 SUMCO

【株式会社東洋新薬鳥栖工場 (1・2年生)】



【株式会社インフォグラム伊万里開発センター (1年生)】



【株式会社 SUMCO (2年生)】



(4) 伊万里市高校応援団（伊万里市による設置）の皆様との連携

9月26日（金）および10月3日（金）の両日にわたり、1・2年生の希望者を対象に企業訪問を実施した。訪問先としてご協力いただいたのは、日頃より本校をご支援いただいている高校応援団の皆様で、以下の企業である。

- ・伊万里ケーブルテレビジョン株式会社
- ・日本ディクス株式会社 伊万里事業所
- ・JA 伊万里 本所
- ・株式会社インフォグラム 伊万里開発センター

また、今回の企画の一環として行われた座談会では、本校卒業生との対話の機会を設けてくださった企業様もあり、就職された先輩方と直接話すことで、生徒たちは学校での活動をより主体的に捉えることができた。

【伊万里ケーブルテレビジョン株式会社】



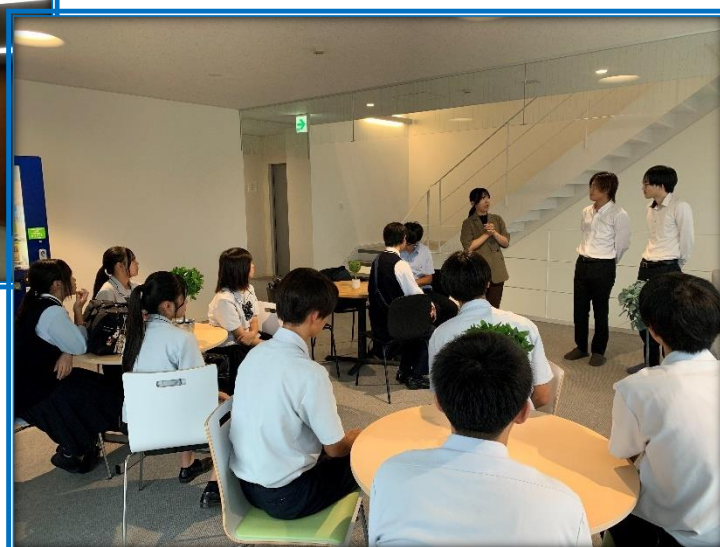
【日本ディクス株式会社】



【JA 伊万里本所】



【株式会社インフォグラム伊万里開発センター】



### 3 愛農祭（生産物販売会）

(1) 期日 令和7年11月8日（土）

(2) 目的

- ① 販売会を通して、自主性、計画性、責任感を身に付ける。
- ② 日頃の学習成果を発表し、本校の学習成果を保護者や地域の方々へ広く知らせる。
- ③ 伊万里実業高校ならではの魅力を地域の小中学生に知ってもらう。

(3) 参加生徒

生物科学科全学年、森林環境科全学年、フードビジネス科全学年  
農業クラブ役員、茶道部、太鼓部、5学科共同課題研究（竹プロ）

(4) 場所

伊万里実業高校農林キャンパス

生物科学科（生物科学科棟1階、草花温室、体育館横広場）

森林環境科（森林環境科棟横駐車場）

フードビジネス科（フードビジネス科棟1階、畜産実習棟1階）

体育館、礼法室（普通教室棟1階）



#### 4 キャリア教育研修

##### (1) 目的

「総合的な探究の時間」を通じて育まれた多様な視点や社会的スキルを、自分の課題として捉える機会を提供することで、3年次におけるキャリア学習においてより現実的かつ主体的な理解を促し、その学びに客観的な価値を見出す一助とする。

##### (2) 実施要項

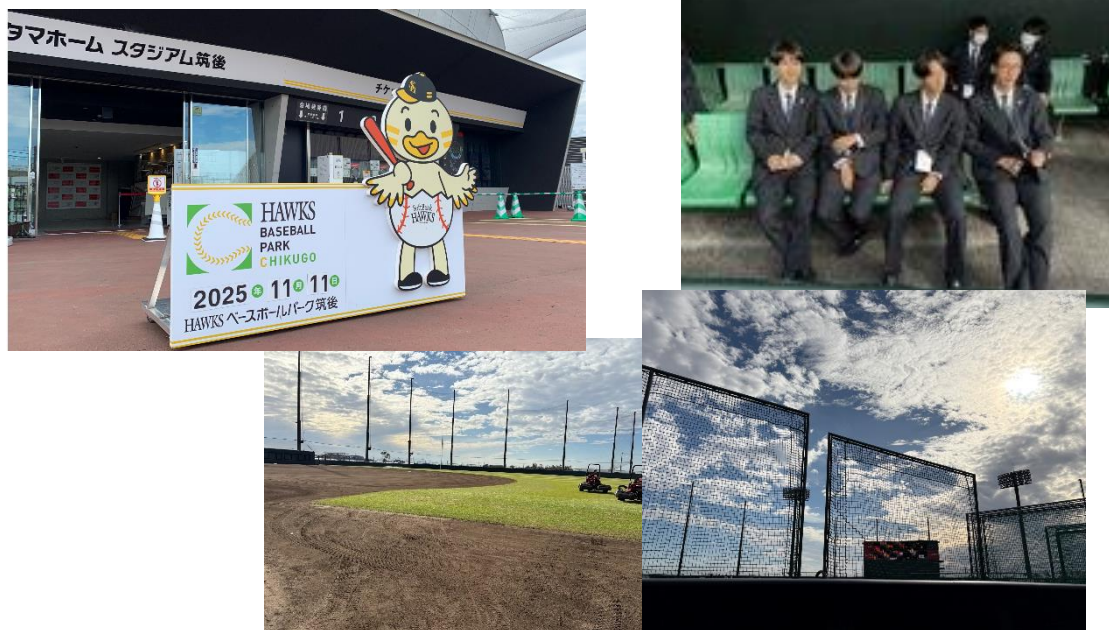
対象学年：1年生と2年生 各科4名ずつ希望者を募り、合計40名

日時：令和7年11月11日（火）

##### 【久留米工業大学】



##### 【HAWKS ベースボールパーク筑後】



## 5 キャンパス間交流学习

### (1) 目的

本校「農業科」と「商業科」の生徒たちがお互いに相手のキャンパスに移動して交流学习を体験することで、それぞれのキャンパスの学びを理解するとともに、それぞれの専門学習に興味関心を持たせる。

### (2) 実施内容

【農林キャンパス 商業科1年生・情報処理科1年生】

日 程 令和7年12月10日（水）

時 間 9：05～15：45 交流学习（2班に分けて各学科を回る）

#### 生物科学科

商業科1年（①②限目）

時間	A班	B班	C班	D班
①9:05～9:55	野菜の栽培実習 (校内野菜調整室)	犬の飼育管理実習 (校内トリミング室)	農業機械実習 (川西圃場)	花の栽培管理実習 (校内草花調整室)
対応生徒	1A生徒	1A生徒	1A生徒	1A生徒
9:55～10:05	移動・休憩			
②10:05～10:55	犬の飼育管理実習 (校内トリミング室)	野菜の栽培実習 (校内野菜調整室)	花の栽培管理実習 (校内草花調整室)	農業機械実習 (川西圃場)
対応生徒	1A生徒	1A生徒	1A生徒	1A生徒

情報処理科1年（⑤⑥限目）

時間	A班	B班	C班	D班
①13:55～14:45	野菜の栽培実習 (校内野菜調整室)	犬の飼育管理実習 (校内ドックラン)	農業機械実習 (川西圃場)	花の販売実習 (校外)
対応生徒	3A野菜専攻生	3A畜産専攻生	3A果樹専攻生	3A草花専攻生
14:45～14:55	移動・休憩			
②14:55～15:45	犬の飼育管理実習 (校内ドックラン)	野菜の栽培実習 (校内野菜調整室)	花の販売実習 (校外)	農業機械実習 (川西圃場)
対応生徒	3A畜産専攻生	3A野菜専攻生	3A草花専攻生	3A果樹専攻生



農業機械体験



草花栽培管理



校外販売

トラクタの運転操作を体験

5限目にシクラメンの販売準備

5限目に準備したシクラメンを伊万里駅前商店街にて販売

## 森林環境科

### 情報処理科 1 年 (①②限目)

時間	A班	B班
①9:05～9:55	竹の加工実習 (木材加工室前)	平板測量実習 (森林環境科棟前)
対応生徒	3 E生徒	3 E生徒
9:55～10:05	移動・休憩	
②10:05～10:55	平板測量実習 (森林環境科棟前)	竹の加工実習 (木材加工室前)
対応生徒	3 E生徒	3 E生徒

### 商業科 1 年 (③④限目)

時間		
①11:05～11:55	竹の加工実習 (木材加工室前)	平板測量実習 (森林環境科棟前)
対応生徒	1 E生徒	1 E生徒
11:55～12:05	移動・休憩	
②12:05～12:55	平板測量実習 (森林環境科棟前)	竹の加工実習 (木材加工室前)
対応生徒	1 E生徒	1 E生徒



竹の加工



平板測量

## フードビジネス科

### 情報処理科 1 年 (③④限目)

時間	A 班	B 班
①11:05～11:55	パン製造実習 (製造室)	食品化学実験 (チーズ作り) (実験室)
対応生徒	1 F 生徒	1 F 生徒
11:55～12:05	移動・休憩	
②12:05～12:55	食品化学実験 (チーズ作り) (実験室)	パン製造実習 (製造室)
対応生徒	1 F 生徒	1 F 生徒

### 商業科 1 年 (⑤⑥限目)

時間	A 班	B 班
①13:55～14:45	パン製造実習 (製造室)	食品化学実験 (チーズ作り) (実験室)
対応生徒	3 F 生徒	3 F 生徒
14:45～14:55	移動・休憩	
②14:55～15:45	食品化学実験 (チーズ作り) (実験室)	パン製造実習 (製造室)
対応生徒	3 F 生徒	3 F 生徒



食品化学実験 (チーズ作り)



パン製造

【商業キャンパス 生物科学科2年生・森林環境科2年生】

日程 令和7年12月17日(水)

時間 10:00～11:40 交流学习(2班に分けて各学科を回る)

バス移動 往路 9:30農林キャンパス発 復路 11:50商業キャンパス発

時間	生物科学科(2年生)	森林環境科(2年生)
10:00 ~ 10:45	商業科(簿記室)	情報処理科(情報総合実習室)
対応生徒	2B生徒	2C生徒
10:55 ~ 11:40	情報処理科(情報総合実習室)	商業科(2年生共有1)
対応生徒	2C生徒	2B生徒

商業科

「キャンプ社長」(経営戦略ボードゲーム)を行った。プレイヤー(農林キャンパス生徒)はキャンプ場経営者になり、商業キャンパス生徒が進行と設備投資や雇用の判断のアドバイスを行った。



学科説明



「キャンプ社長」  
ゲームの様子



「キャンプ社長」  
ゲームカード

情報処理科

Photoshopの操作方法を体験してもらい、静止画の複写や合成などの加工を体験してもらった。広告ポスター作りや発表用スライドなどの画像加工に役立つと考える。



Photoshop



Photoshop



Photoshop

## 6 課題研究発表会

### (1) 目的

農業及び商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行う「課題研究」の成果を発表することによって、農業と商業を学んだ生徒同士の学び合いを目指す。

### (2) 実施要項

期 日 令和8年2月9日（月）

場 所 佐賀県立伊万里実業高校農林キャンパス 体育館

#### ① 生物科学科

『イチゴ高設栽培における年内収量アップへの取り組み』



『有田焼と多肉の寄せ植えが結ぶ地域の未来』

伝統の技 × 未来を育む農業 × 高校生の情熱

**有田工業高校 多肉植物のための器づくり**

・デザイン性  
伝統の技法を活かしつつ、釉薬や絵付けの色合いを調整

・ひとつとして同じものはない  
ひとつひとつ表情が異なり、それも魅力になる

**地域の未来への贈り物**

#### ② 森林環境科

『校内デッドスペースの利活用について』

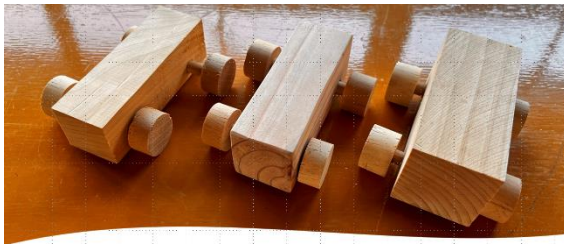
**トラバース測量**

ある一点から順番に、測量して得られた測点を結合させ、各辺の長さや方位角を求めることにより各基準点の位置を定める測量方法

**平板測量(放射法)**

作成したトラバース図面を用いて、放射法による細部測量を実施した。

『木の触れ合いは人との触れ合い みんなで楽しもうものづくり』



木材は4.5cm×10  
 タイヤ 30π  
 サスペンション前7cm 後6cm

変更  
 タイヤ 25π  
 サスペンション 前5.5cm



③ フードビジネス科：

『園児とエンジョイ！～伊万里の食育活動に貢献～』

**栽培**

- ・えだまめ
- ・トマト
- ・黄パプリカ
- ・さつまいも

全部自分たちで種をまき育てました！



『バタフライピーの有効活用～バタフライピーで蝶ハッピー～』

## バタフライピーについて

**バタフライピーとは！**  
 pHで色が変わる  
 東南アジア原産のマメ科のつる性植物  
 鮮やかな青い花が特徴のハーブティー

**バタフライピーの効果**

- ・細胞の老化を予防
- ・血液をサラサラにする
- ・リラックス効果

**バタフライピーパウダー使用上の注意**  
 酸性・アルカリ性のもので色味が変わります。

(pH) 2.3	4.3	5.8	6.8	8.1	9.6	12.6	
酸性			中性	アルカリ性			
酸性(青→紫に変化)				アルカリ性(青→緑に変化)			
お酢	炭酸飲料	フルーツジュース	レモン	卵白	小麦粉	バナナ	大豆製品



④ 商業科

『 清潔ポッケ 』

『 ～日常の気まずさが、大喜利で笑いと自信に変わるゲーム開発～ 』

02 対象とする顧客と市場性

■市場規模の予測



若者人口・・・8,997千人

中学+高校+大学 【参考文献】文部科学省：令和6年度学校基本調査（確定値），2024年12月18日

アレルギー性鼻炎の有症率：49.2%（全国）→「40%」と推測

年齢層別有症率では、10歳代の若者における有症率の増加が著しい

【参考文献】松原 篤, 坂下 雅文他：鼻アレルギーの全国疫学調査2019（1998年, 2008年との比較）, 日本耳鼻咽喉科学会報(2020), 123巻6号 p. 485-490

※対象となる若者人口：3,599千人 (8,997千人×40%)

04 将来的な見通し・準備状況

■試作品①

モニター：25歳 女性 営業（職種）

- ・使用シーン 仕事中鼻をかんだ時、ご飯を食べた後口を拭いた時
- ・使いやすさ 袋の形が崩れる、たまにビニールが外れる
- ・携帯性 軽いので嫌な感じはしないが、ゴミを入れるにつれてかさばる
- ・容量 丸めたティッシュ約8~10
- ・静音性 ビニールは多少ガサガソというが、気になるほどではない
- ・その他 ズボンのポケットで使用し、ポケットの中に袋を固定できるようにできれば良いと感じた



『 商業デザイン Photoshop、Illustrator の基礎学習から作品制作まで 』

7月 伊実祭ポスター制作 illustrator Ai

- ◎作品テーマ 伊実祭（文化祭を楽しもう！）
- ◎制作時間 6時間
- ◎工夫した点 人物の表情と背景のデザイン

10月 illustrator Ai

- ◎作品テーマ 伊萬里神社御神幸祭（トントン祭）
- ◎制作時間 6時間
- ◎工夫した点 神輿（みこし）のデザインと配色 川落としの水しぶき

⑤ 情報処理科

『 プログラミング 』

Scratch (スクラッチ)

- ・教育用無料プログラム
- ・マウス操作でブロックをつなげるだけでok
- ・初心者でも大丈夫
- ・高度な処理も可能

Unity (エニティー)

- ・本格的なゲーム作成ソフト
- ・無料でも使用できる
- ・C#でプログラミング
- ・3Dのゲームも製作可能
- ・ゲームでよく使う処理が豊富にある
- ・素材が充実している

⑥ 『 令和7年度未来スペシャリスト海外研修 韓国研修報告発表 』

4. 研修の内容

(2) 研修1日目



トウガラシ



果樹



米

4. 研修の内容

(3) 研修2日目

10月21日(火)  
午前

【ビョルマダン図書館】  
【麻浦(マポ)農水産市場】

主な研修内容  
・ 韓国の文化を学ぶ  
・ 食の市場調査  
・ 農産物の市場調査  
・ 韓国の物価を知る



麻浦農水産市場



ビョルマダン図書館



4. 研修の内容

(4) 研修3日目



国立農業博物館



水原華城

⑦ 『 令和7年度未来スペシャリスト海外研修 台湾研修報告発表 』

・ 濱江果菜市场

- ・ 日本にはない果物などがおいてある
- ・ 高品質な野菜や果物が販売されていて比較的安価に購入することができる。(卸売価格くらい)
- ・ 競り(せり)が朝早く(午前6時ごろ~)から始まる朝になると競り会場は品物で満帆になるが朝8時ごろにはほぼ空の状態になる。



・ 松山文創園區

【台北文創】  
マーケットのような建物  
図書館の中に  
カフェスペースの設置  
図書館以外にも  
コスメショップや  
グッズ販売店、飲食物販売店  
(チョコレートショップなど)等



・ 中山記念堂

- ・ 蒋介石を記念してつくられた建物
- ・ 蒋介石がなくなった1975年(享年89歳)の翌年1976年(生誕から90年)に建設開始
- ・ ※階段は84段ある。
- ・ 壁(内装)は、白黒灰色の大理石でできている。



## 7 5学科共同課題研究「地域の放置竹林問題解決に向けたプロジェクト（竹プロ）」

### (1) 目的

本校では、農業科が1次・2次産業を、商業科が2次・3次産業を担う人材の育成を目指し、両キャンパスの教育資源を連携させることで、校内で6次産業化を実践できる体制を整えている。この強みを生かし、令和5年度から「課題研究」において5学科共同課題研究を実施し、6次産業化の視点を基盤として、地域の共通課題である放置竹林問題の解決に取り組んでいる。学科横断型の研究活動を通して、生徒が幅広い視野を養い、協働しながら課題解決に向かう力を育成することを目指している。

### (2) 実施内容

#### ① 活動の方法

令和7年4月に5学科共同課題研究への参加を希望する生徒を募集し、生物科学科6名、森林環境科4名、フードビジネス科8名、商業キャンパス8名、計26名が集まった。5学科での共同授業や対面やオンラインでのミーティングを行い、5学科が協働して活動できるように実施した。

#### ② 共通の地域課題の設定と活動目標

5学科共同で取り組む地域課題は、令和7年度に引き続き「地域の放置竹林問題」とした。単年度の研究ではなく、この取り組みやすいテーマで継続研究を行うことで、活動を持続的に進めるよう配慮したためである。また、昨年度は校内だけで完結する活動であったため、今年度は、「外部の関係機関との連携」を意識することを目標として設定した。

#### ③ 各学科の研究内容

##### 【森林環境科】

伊万里市内における放置竹林の現状把握を目的として、竹林マップの作成に取り組んだ。作成にあたっては、外部機関である伊万里農林事務所と連携し、専門機関が作成した森林計画書等の資料を活用することで、客観性と信頼性を確保したデータに基づくマップを作成した。また、地域住民を対象に竹の活用方法に関するアンケート調査を実施し、地域における竹林の実態と課題を整理した。これらの成果については、校内成果発表会において報告し、地域課題に関する情報発信を行った。



伊万里農林事務所との連携



マップ製作



アンケート調査

### 【生物科学科】

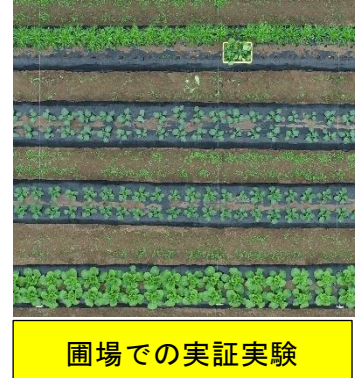
農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、竹を有用な有機資源と捉え、有機質肥料および有機農薬の開発に取り組んだ。有機質肥料については、前年度に実施した竹チップを牛用敷料として発酵させる実験を発展させ、竹堆肥の製造を行った。また、有機農薬については、外部機関である長崎大学薬学部と連携し、竹を活用した製造方法の研究を進めた。これらの成果は校内圃場で実証実験を実施し、生育状況や効果の検証を行った。



竹堆肥の散布



有機農薬の散布



圃場での実証実験

### 【フードビジネス科】

竹の新たな活用方法を検討するため、竹炭パウダーを用いた焼き菓子の開発に取り組んだ。商品開発にあたっては、竹炭の製造を行っている外部機関である伊万里市立花地区自治公民館館長会・OB会と連携し、竹炭の特性や活用方法について指導を受けた。こうして開発した焼き菓子については、竹炭の利活用に関する啓発チラシを作成し、愛農祭において来場者へ配布するなど、普及・啓発活動にも取り組んだ。



地域との連携



商品開発「パンダクッキー」



販売会でのPR活動

### 【商業科および情報処理科】

竹の特性を生かした商品開発として、竹の消臭効果に着目した猫砂の開発に取り組んだ。製品化に向けては、松葉のペレット化に取り組む佐賀県立唐津南高校と連携し、竹のペレット化技術の確立を図った。また、開発した竹ペレットを猫砂として使用し、臭気計による測定を実施するなど、科学的手法に基づく効果検証を行った。さらに、原価計算を行い、市場性や商品価値についての検討も行った。



竹ペレットの製造

### 【5学科共同の活動】

武雄市で伝統的な竹細工に取り組みられている栗山商店に来校してもらい、竹細工ワークショップを開催した。地域の放置竹林問題の解決に向けて竹の活用方法について研究を行っている5学科の生徒が、伝統的な竹の鍋敷きの製作を体験した。竹に触れながら竹の特性を理解し、竹の価値を再確認した。また、伝統工芸に触れる大変貴重な機会となった。



## 8 他校との連携事業

### (1) 目的

本校生徒が学習内容の専門性の異なる生徒と交流したり探究活動に取り組んだりすることで、他者への理解と他者と協働的に取り組もうとする態度を養うことをねらいとする。また、オンライン機器を有効に活用し、効率的に連携を図ることを目指す。

### (2) 実施内容

有田工業高校定時制セラミック科との連携事業

期間：令和7年4月～12月

科目「課題研究」において本校生物科学科草花研究班と有田工業高校定時制セラミック科の共同研究を実施した。草花研究班では、校内で栽培した多肉植物を寄せ植えして販売している。商品への付加価値を生み出すことと地域資源を活用した取り組みの実現のために、有田工業高校セラミック科に植木鉢の作成を依頼した。Teams によるオンライン会議で意見交換を行い、双方の要望を集約したとともに、今年度は双方の対面での交流が実現し、オンラインと対面の両方を生かした理想的な形態で実施することができた。



有田工業高校セラミック科との対面での交流活動



愛農祭での多肉鉢販売

### (3) 事業の成果

オンライン機器を効果的に使用し、他校と効率的に連携できた。活動を通して他者への理解と他者と協働的に課題解決に取り組む態度を養うとともに、この活動を地域に発信することもできた。また、この活動の成果を農業や窯業の専門機関に発信したいという意見が出てきており、次年度以降も継続的な活動として期待できる。

#### IV 関係機関等との連携協力体制の構築に係る取組の報告

##### 1 運営指導委員会

###### ●運営指導委員

所属	氏名	主な実績
佐賀大学教育学部 学部長	小野 文慈	佐賀県のICT活用教育改善検討委員会委員を務めている。
有田町教育委員会 教育長	吉永 淳一	元佐賀県教育委員会事務局教育DX推進グループ指導主幹であり、これまでの取組を熟知している。さらに、行政とのつながりも期待できる。
佐賀県立佐賀農業高等学校 校長	三原 聖子	前伊万里実業高等学校長であり、これまでの取組を熟知している。開発プログラムの横展開を進める上でのアドバイスを期待できる。
佐賀県教育センター 所長	山崎 哲也	元佐賀県立有田工業高等学校長であり、高校生の様々な取組に精通しており、地域連携等への実績例を提供できる。
佐賀県教育委員会事務局 教育振興課 指導主事	谷山 泰子	佐賀県立高等学校の「唯一無二の学校づくり」担当であり、県内高等学校の特色を生かした取組や地域との協働による取組などを推進している。

###### ●コンソーシアムメンバー

所属	氏名	主な実績
伊万里市総合政策部 企業誘致・商工振興課長 (兼) 企業誘致推進室長	佐々木 慎二	地域企業との関係構築と強化、ならびに伊万里市が実施する高校支援事業における本校との連携を支援
久留米工業大学 AI 応用研究所教授	小田 まり子	MDASH プラス認定校として、メタバース、遠隔会議等の高大連携を支援
IMARI 教育センター 未来共育クリエイター	福井 秀平	未来共育クリエイターとしての知見を活かし、本校の協働的な取り組みを支援
有限会社伊万里グリーンファーム 代表取締役会長	前田 清浩	本校評議員(令和4年度)として、本校の活動を支援

今年度の運営指導委員会は、コンソーシアム会議と合同で実施した。

なお、開催概要は以下の通りである。

第1回運営指導委員会およびコンソーシアム会議

期 日 令和7年7月8日(火)  
場 所 佐賀県立伊万里実業高等学校 商業キャンパス 会議室  
参加者 運営指導委員 5名  
コンソーシアムメンバー 4名  
管理機関 2名  
学校職員 17名  
コーディネーター 1名  
内 容 学校長挨拶  
自己紹介  
学校概要説明  
協議 「実施計画書」の説明  
今年度取組事業の説明  
指導及び助言等

第2回運営指導委員会およびコンソーシアム会議

期 日 令和7年12月5日(金)  
場 所 佐賀県立伊万里実業高等学校 農林キャンパス 視聴覚室  
参加者 運営指導委員 5名  
コンソーシアムメンバー 4名  
管理機関 3名  
学校職員 17名  
コーディネーター 1名  
内 容 学校長挨拶  
自己紹介  
学校概要説明  
協議 今年度取組事業の説明  
指導及び助言等

第3回運営指導委員会およびコンソーシアム会議

期 日 令和8年2月9日(月)  
場 所 佐賀県立伊万里実業高等学校 農林キャンパス 視聴覚室  
参加者 運営指導委員 5名  
コンソーシアムメンバー 4名  
管理機関 2名  
学校職員 17名  
コーディネーター 1名  
内 容 学校長挨拶  
自己紹介  
学校概要説明  
協議 今年度取組事業に関する指導及び助言等

## 2 カリキュラム委員会

### ○ 第1回カリキュラム委員会

期 日 令和7年4月24日(木)

参加者 校長、副校長、事務長、主幹教諭  
教務主任、農場長、学科長、学科主任、教科主任

内 容 「観点別学習状況の評価」について

### ○ 第2回カリキュラム委員会

期 日 令和7年5月23日(金)

参加者 校長、副校長、事務長、主幹教諭  
教務主任、農場長、学科長、学科主任、教科主任

内 容 「学習評価の進め方」および「各観点の評価」について

### ○ 第3回カリキュラム委員会

期 日 令和7年6月25日(水)

参加者 校長、副校長、事務長、主幹教諭  
教務主任、農場長、学科長、学科主任、教科主任

内 容 学習の評価について

### ○ 第4回カリキュラム委員会

期 日 令和7年9月19日(金)

参加者 校長、副校長、事務長、主幹教諭  
教務主任、農場長、学科長、学科主任、教科主任

内 容 教務内規の変更について

## 3 学科横断・連携チーム連絡会

本連絡会は、学科およびキャンパスを越えた連携体制を構築し、文理融合型教育の推進と教育効果の向上を図ることを目的として設置するものである。

今年度より、会議の参加者構成を刷新し、現場の実態を的確に反映した戦略的な取組の企画や立案が可能となる体制へと再編を行った。

【参加者】	事務長	(全体の意見調整)
	主幹教諭	(全体の意見調整および会議運営の統括)
	農場長	(農林キャンパス全体の意見調整)
	商業科主任	(商業キャンパス全体の意見調整)
	農林キャンパス	第1学年主任(1年学年団の意見集約)
		第2学年主任(2年学年団の意見集約)
		第3学年主任(3年学年団の意見集約)
	商業キャンパス	第1学年主任(1年学年団の意見集約)
		第2学年主任(2年学年団の意見集約)
		第3学年主任(3年学年団の意見集約)

## 【連絡会】

### ○ 第1回連絡会

- 期 日 令和7年4月11日（金）  
参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任  
内 容 4月28日の総合的な探究の時間について  
今年度の講話について、次回の連絡会の日程について

### ○ 第2回連絡会

- 期 日 令和7年4月24日（木）  
参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任  
内 容 5月12日と26日の講話の内容について

### ○ 第3回連絡会

- 期 日 令和7年5月7日（水）  
参加者 主幹教諭、商業科主任、伊万里市役所企画政策課  
内 容 9月の講話について

### ○ 第4回連絡会

- 期 日 令和7年5月10日（土）  
参加者 主幹教諭、農場長、商業科主任、両キャンパスの学年主任  
内 容 今年度の総合的な探究の時間の運用について  
今年度の講話とワークショップについて

### ○ 第5回連絡会

- 期 日 令和7年5月20日（火）  
参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任  
内 容 5月29日の会議のアジェンダについて

### ○ 第6回連絡会

- 期 日 令和7年5月21日（水）  
参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任  
内 容 5月26日の講話について

### ○ 第7回連絡会

- 期 日 令和7年5月26日（月）  
参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任  
内 容 コンソーシアムメンバーの選定について

### ○ 第8回連絡会

- 期 日 令和7年5月29日（木）  
参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任、第1学年主任（農林キャンパス）  
第2学年主任（両キャンパス）、第3学年主任（商業キャンパス）  
内 容 教育DX推進グループの訪問について、三者面談期間中の授業について  
第1回運営指導委員会およびコンソーシアム会議について  
6月の伊万里市民センターでの講話について、課題研究集録について  
9月の講話について、企業訪問について、キャリア教育研修について  
12月5日の中間発表会について、キャンパス間交流学習会について

- 第9回連絡会
  - 期 日 令和7年6月26日(木)
  - 参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任
  - 内 容 6月30日の講話について
- 第10回連絡会
  - 期 日 令和7年6月27日(金)
  - 参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任
  - 内 容 企業訪問について
- 第11回連絡会
  - 期 日 令和7年7月4日(金)
  - 参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任
  - 内 容 企業訪問の日程について
- 第12回連絡会
  - 期 日 令和7年7月17日(木)
  - 参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任
  - 内 容 学科横断・連携チーム連絡会の委員について
- 第13回連絡会
  - 期 日 令和7年7月29日(火)
  - 参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任
  - 内 容 企業訪問先について
- 第14回連絡会
  - 期 日 令和7年7月30日(水)
  - 参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任
  - 内 容 企業訪問先について
- 第15回連絡会
  - 期 日 令和7年8月19日(火)
  - 参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任
  - 内 容 企業訪問先と各学年の参加について
- 第16回連絡会
  - 期 日 令和7年8月28日(木)
  - 参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任
  - 内 容 東洋新薬からの変更依頼について
- 第17回連絡会
  - 期 日 令和7年9月5日(金)
  - 参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任
  - 内 容 企業訪問先の確定、各学年への希望者の集約について
- 第18回連絡会
  - 期 日 令和7年9月12日(金)
  - 参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任
  - 内 容 キャリア教育研修について

○ 第19回連絡会

期 日 令和7年10月17日（金）

参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任  
第1学年主任（両キャンパス）、第2学年主任（商業キャンパス）  
第3学年主任（両キャンパス）

内 容 キャリア教育研修について、キャンパス間交流学習会について  
12月5日の中間発表会について、課題研究集録について  
12月11日の宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校訪問について

○ 第20回連絡会

期 日 令和8年1月19日（月）

参加者 事務長、主幹教諭、農場長、商業科主任

内 容 今年度の総合的な探究の時間の総括について

【運営指導委員会およびコンソーシアム会議】

○ 第1回運営指導委員会およびコンソーシアム会議

期 日 令和7年7月8日（火）

参加者 校長、副校長、事務長、主幹教諭、農場長、コーディネーター  
生物科学科長、森林環境科科長、フードビジネス科科長  
商業科主任、情報処理科主任、第1学年主任（両キャンパス）  
第2学年主任（両キャンパス）、第3学年主任（両キャンパス）  
佐賀県教育委員会、運営指導委員、コンソーシアムメンバー

内 容 事業概要説明、今年度の取組についての意見交換、諸連絡

○ 第2回運営指導委員会およびコンソーシアム会議

期 日 令和7年12月5日（金）

参加者 校長、副校長、事務長、主幹教諭、農場長、コーディネーター  
生物科学科長、森林環境科科長、フードビジネス科科長  
商業科主任、情報処理科主任、第1学年主任（両キャンパス）  
第2学年主任（両キャンパス）、第3学年主任（両キャンパス）  
佐賀県教育委員会、運営指導委員、コンソーシアムメンバー

内 容 中間発表会について、今年度の取組についての意見交換、諸連絡

○ 第3回運営指導委員会およびコンソーシアム会議

期 日 令和8年2月9日（月）

参加者 校長、副校長、事務長、主幹教諭、農場長、コーディネーター  
生物科学科長、森林環境科科長、フードビジネス科科長  
商業科主任、情報処理科主任、第1学年主任（両キャンパス）  
第2学年主任（両キャンパス）、第3学年主任（両キャンパス）  
佐賀県教育委員会、運営指導委員、コンソーシアムメンバー

内 容 来年度の取組についての意見交換、諸連絡

【職員会議】

毎月の職員会議で職員の共通認識を図る。

#### 4 先進校視察報告

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

期 日 令和7年12月11日(木)

参加者 主幹教諭

内 容 中間発表会の視察

#### V 補足資料（ホームページ掲載内容からの抜粋）

##### 総合的な探究の時間（始まりの合図）

4月11日（金）に2Aの生徒が先生と一緒に、白幡牧場近くの竹林で竹の子掘りを体験しました。そして、15日（火）には、なんと校長先生も体験！土のにおいや春の風を感じながら、自然の中での学びを楽しみました。教室だけでは味わえない体験ができるのも、実習の魅力ですね。



##### 総合的な探究の時間（オンライン講話）

4月21日（月）の講話は、京都からのオンライン配信でした。今回は、高校生、大学生を経て、現在はプログラマーとして活躍されている社会人の方から、「仕事を楽しむこと」と「日々を楽しく生きること」が、とても近い関係にあるというお話をいただきました。また、納期（約束事）が迫ってくるような大変なときこそ、自分の中にレジリエンスを育てるチャンスだということも教えていただきました。さらに、印象的だったのは、今では当たり前のように使われる PowerPoint をあえて使わず、「言葉の力」だけで引き込まれる、そんな素敵な時間となりました。



## 総合的な探究の時間（ワークショップ）

今年度から新たに始めたワークショップの最初の授業風景です。授業の冒頭で、「記憶のメカニズム」についての簡単なレクチャーを受けた後、一週間前に実施された講話の内容を振り返る活動に取り組みました。

グループワークでは、自分の考えを整理し、それを相手に分かりやすく伝える力を養うことを目的に、意見交換や発表を行いました。授業の後半では、学習用 PC を使って情報を調べながら、インターネット上の情報量の多さや、その信頼性について改め考える機会となりました。

ワークショップは、単に情報収集力を高めるだけでなく、正副担任の先生やクラスメイトとの意見交換を通じて思考を深め、さらに年齢や性別の異なる多様な人々との関わりを通して協調性やコミュニケーション力を育むことも大きな目的としています。



## 総合的な探究の時間 （IT 業界で働くということ ～女性 SE のリアル～）

5月12日（月）の講話は、ハイブリッド型で実施されました。ハイブリッド型の講話は、i6が目指すDXの一環であり、今回の講話では、農林キャンパスの生徒は体育館での対面参加、商業キャンパス生徒はオンライン配信による視聴となりました。

演題は、「IT 業界で働くということ ～女性 SE のリアル～」でした。今回は、ジェンダーギャップが大きいとされる SE（システムエンジニア）の仕事について、多面的な切り口でお話いただきました。また、職業観にも触れていただき、特に「ミッションを持つことの大切さ」について深く掘り下げていただきました。刹那に生きる人生との違いを感じさせる、非常に示唆に富んだ内容となりました。



## 総合的な探究の時間（市長が伊万里を伝えたい ―地域を知る―）

5月19日（月）は、前回に引き続きハイブリッド型で講演会を実施しました。

演題は、「市長が今の伊万里を伝えたい ―地域を知る―」でした。深浦市長からは、伊万里市の持つストロングポイントを丁寧に解説していただき、今後の市政の方向性についても分かりやすく教えていただきました。伊万里市が目指す未来の姿がより具体的に想像できるとともに、私たち市民が「伊万里をもっと好きになる」ための様々な取り組みがなされていることを知る機会となりました。

また、講演の締めくくりには、「変わらない過去」や「不確実な未来」よりも「変えられる現在」を大切にしてほしい！というメッセージが印象深く心に響きました。

最後まで丁寧に言葉を選び、分かりやすく語ってくださった深浦市長に、心より感謝申し上げます。



## 総合的な探究の時間（あたたかい看護を心から）

5月26日（月）に行われた講演会では、佐賀大学医学部附属病院でご勤務されている看護師の方をお招きしました。

講演の前半では、高校生の頃に考えていたことや、当時の経験についてお話をいただきました。その中で、高校生のときにしかできない多様な体験を積み上げる過程で形成させる「経験値」が、社会人になったときに直面する課題の解決力を高めてくれることを学びました。

後半では、「あたたかい看護を心から」という演題のもと、看護師として求められるスキルや、日々進歩する医療を患者さんのために最大限に活用するために必要な学びに対する姿勢についてお話をいただきました。また、チームで取り組むことが多い職場であることから「察する力」の大切さについても教えていただきました。

そして何より、ご自身の生き方から、多くの困難を前向きに受け止めることで芽吹くレジリエンスの大切さを強く感じました。私たちも、これから直面する様々な困難の中にこそ、成長の種があることを信じ、前進する勇気をいただきました。



## 総合的な探究の時間（竹プロ in 長崎大学）

5月28日（水）の半日、長崎大学薬学部にてワークショップを実施しました。

ワークショップでは、薬学部の大学生が自身の研究内容を発表し、高校生に向けて、問題発見の経緯や解決の手法、研究の発展性や今後の課題について、分かりやすく紹介してくださいました。

また、大学施設見学では、薬用植物園などを訪れ、大学の先生から植物由来の薬効成分についての幅広い知識を教えていただきました。実際の研究現場や大学での学びに触れることで、薬学の世界を身近に感じることができました。

今後は、本ワークショップを継続的に実施しながら、課題研究活動の一環としての大学との協働の可能性を探っていく予定です。実践的な学びを通して、高校生の課題研究に深みが出ることを期待しています。



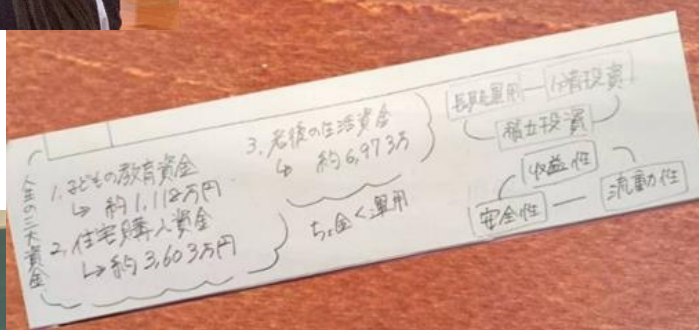
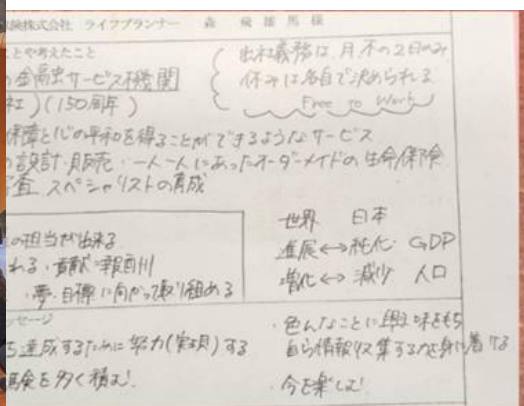
## 総合的な探究の時間（ライフプランナーとして生きる）

6月9日（月）に実施された講演会では、プルデンシャル生命保険株式会社にご勤務のライフプランナーの方をお招きしました。

講演の前半では、「人生100年時代」をより良く生き抜くための資産運用についてお話しいただきました。資産運用において重視すべきポイントとして、「収益性」「安全性」「流動性」の3つを挙げられました。また、「銀行」「証券会社」「保険会社」の三大金融機関の中で、第三の視点として「保険会社」を有効に活用するこの重要性にも触れていただきました。

後半では、目標完遂のための努力を惜しまないこと、成功体験と失敗体験の双方から学ぶことの大切さ、情報は自ら取りに行く時代である、という3点を強調されました。最後には、「今しか出来ないことを大切にしてほしい」との力強いメッセージをいただきました。

人生を俯瞰すると、資産運用における「リスクオン」と「リスクオフ」といった考え方にも通じる学びが多く、大変貴重な時間となりました。



## 総合的な探究の時間（1回しかない人生をどう生きるのか）

6月10日（火）は、農林キャンパスの生徒が午前中の授業を商業キャンパスで行った後、伊万里市が実施している「市内高等学校支援事業」の一環として開催された講演会に参加しました。講師は、アイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社にご勤務の金子和斗志様です。

講演では、「自分自身の全方位においてリミッターを解除すること」や、「クラスメイトや仲間など、身近なチームの可能性を最初から限定しないこと」の大切さについて熱く語っていただきました。また、「変わらない過去や他人ではなく、自分自身の“今”と“未来”を変える力がある」との言葉を通して、無我夢中で目の前のことに取り組むことの大切さを教えていただきました。さらに、「勉強は自分の未来を輝かせるための有効な手段である」とのメッセージも印象に残りました。生徒一人ひとりに向けられた熱い言葉が心に響く、有意義な講演会となりました。



↑ 講話の様子。学習用 PC を使いカラー資料を拝見いたしました。



1Aの商業キャンパスでの授業の様子。普段と違う教室での授業はなんだか新鮮！

## 総合的な探究の時間（てっぺんを目指せ！ ～教育現場で生き抜く力～）

6月16日（月）に実施した講演会では、久留米ゼミナール久留米校の校長先生を講師にお迎えし、「てっぺんを目指せ！ ～教育現場で生き抜く力～」を演題にご講話いただきました。講話では、高い目標を持つことの大切さを軸に、校長先生が出会った生徒の実例を交えながら、物事を成し遂げるためには「レジリエンス（回復力）」が欠かせないことを伝えていただきました。また、長期的な視点で高い目標を掲げることが日々の努力の原動力となること、さらに基礎学力の定着、多様性の理解、主体的な行動が未来を切り拓く力となることも強調されました。生徒たちは熱心に耳を傾け、講話後には前向きな表情が見られました。



## 総合的な探究の時間（竹取物語）

6月18日（水）の午後、3年生の課題研究「竹プロジェクト」では、白幡牧場横の竹林にて竹の伐採を行いました。4月の生物科学科の実習で観察した際には、竹の子だったものが、今では見違えるほど大きく育った竹も発見できました。今日の体験を通して、放置竹林問題の現状を肌で感じ、同時に、その解決策を共に考える貴重な時間となりました。5学科による共同課題研究チーム（通称竹プロ）は、12月5日（金）に農林キャンパスで開催予定の発表会に向けて、今後さらに研究を深めていきます。当日の成果発表を、ぜひ楽しみにお待ちしております。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



## 総合的な探究の時間（後悔しない選択をしよう）

6月30日（月）に実施した講演会では、株式会社佐賀銀行にご勤務の田中様と米沢様を講師にお迎えし、ご講話いただきました。お二人は大都市圏で大学生活を送られた後に、佐賀で勤務するに至った経緯をはじめ、株主総会の話から始まった講話は、地方銀行の果たすべき役割や行員の業務内容、働き甲斐に至るまで多岐にわたる観点から丁寧なご説明をいただきました。また、ご自身の高校生活を振り返りながら、「生徒一人ひとりが、自分の未来を見据えた高校生活を送ってほしい」とのメッセージを寄せられました。

世界展開している企業に勤める社会人のリアルな話は、グローバル化や多様性といった、授業だけでは実感しにくいテーマに対して、生徒たちの感性に直接働きかける貴重な経験となりました。



## 総合的な探究の時間（竹を編む）

7月2日（水）の3年生の課題研究（竹プロ）は、ワークショップを実施しました。今回の講師は、西川登町の栗山商店にご勤務されている栗山様をはじめとする竹細工の職人さんでした。教室での学びに体験的な要素を取り入れることで、生徒たちは竹の特性について実感を伴って理解する貴重な機会となりました。また、両キャンパスの先生方も参加したことで、いつもと異なる協働的な学びの場が生まれました。竹細工の職人、教員、生徒が一つの空間で同じ教材に熱心に取り組む姿が印象的なワークショップとなりました。



## 総合的な探究の時間（新世界へダイブ）

7月7日（月）に実施した講演会では、「株式会社 sueco」にご勤務の松本様を講師にお迎えし、ご講話いただきました。

高校時代、おばあ様との二人暮らしの中で野球や受験に失敗した経験乗り越え、インターネットを通じて新たな知見を得た道程を語られました。また、大学生活では自身の価値を高めるために「人・本・旅」を大切に、厳しい環境に身を置くことで成長する姿勢を示されました。

講話の最後には、「昨日の正解が今日の正解とは限らない」といった柔軟な思考や、仕事は「価値を提供すること」、そして「希少な存在となること」の意義についても語られました。

ヒッチハイクの体験など、生徒にとって身近な話題が多く、生徒たちの心に深く響く講話となりました。



担当者情報（講演者名、所属など） 株式会社 sueco 代表取締役 松本 啓 様	
講話を聞いて知ったことや考えたこと 5日 卵以外もつくっている 高橋さん 仕事＝価値を提供すること 卵 1つ 120円 → 1つ100円 ふつより5倍高い 大事にしていること ・卵の産み ・ハイキング ・読書 大学で働いた 毎日の仕事は忙し →勉強できた → 朝寝が少なくて → クラウドに書く → 教員生活が楽しかった	おんなじからこうをやることは大事 日本のことを知ることが、ショックを引いて → 日本について知りた → 日本にきて、自分のことを知った。 → 自分の知識が、みんなの役に立つ。 → 日本についてもっと知ることがある。 → 日本は面白いと思った。 → 東北に行く → 仙台 → 2週間遠く行くことだけあって、 13人で行くことにした。 → 東京に行く → 遠くへ行く → やさしい → 無理 → スマホで調べると → ロケ撮影した
講話中 講師の先生からのメッセージ どう生きてもいい この日本の日本＝面白い → 世界も一緒	人としてどう生きることは大事 変わり続けることが大事 と心に決めていこう

## 総合的な探究の時間（プラトーの先にある景色）

9月10日（水）、本校商業キャンパスにて、タイムカプセル株式会社 代表取締役 相澤謙一郎様をお迎えし、ご講演いただきました。本講話は、伊万里市が実施する市内高等学校支援事業の一環として開催されたものです。

5限目に実施したご講話では、相澤様がこれまでに経験された数々の挑戦と失敗、そしてそれを乗り越えて現在の会社を軌道に乗せるまでの歩みを、率直かつ熱意を込めてお話しくださいました。幼少期からの試行錯誤や、上手くいかなかった出来事を糧として、社会人としてのレジリエンス（困難を乗り越える力）を身に付けてこられた姿は、生徒たちの心にも深く響いたようです。

6限目のワークショップでは、ご同行の松尾様と八坂様にもご協力をいただき、生徒が製作したゲーム作品をご覧いただきました。全ての作品に対して、ストーリー性の大切さやキャラクターデザインの工夫等について、丁寧なご指導と温かいコメントをいただき、生徒たちも大きな学びを得ることができました。

今後も本校では、地域の皆様とのつながりを大切にしながら、生徒たち一人ひとりの可能性を広げる活動を推進してまいります。暖かいご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。



## 総合的な探究の時間（竹プロジェクトーチップーの登場ー）

9月17日（水）に実施した「5学科共同課題研究」では、1学期にみんなで切り出した竹を、森林環境科の生徒が乾燥させたものを使い、チップーで細かく裁断して竹チップーを作成しました。この研究は、5学科の生徒が協力して取り組む「共同課題研究」の一環であり、異なるキャンパスや教室で学ぶ生徒たちが交流し、互いに刺激を受けながら多様性を育むことも目的としています。

当日は、両キャンパスの先生方も参加し、学校全体で楽しく活動に取り組みました。作成した竹チップーは、ふるいにかけて大きさごとに分類し、今後、5学科それぞれの研究に活用していく予定です。

この研究の中間発表は、12月5日（金）に開催される「i6フェス」で行います。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

また、11月8日（土）の「愛農祭」では、生物科学科・森林環境科・フードビジネス科による販売や模擬店に加え、新たな企画も準備中です。地域の皆さまとの出会いを楽しみにしておりますので、ぜひご来場ください。



VI 申請校の概要（令和7年度）

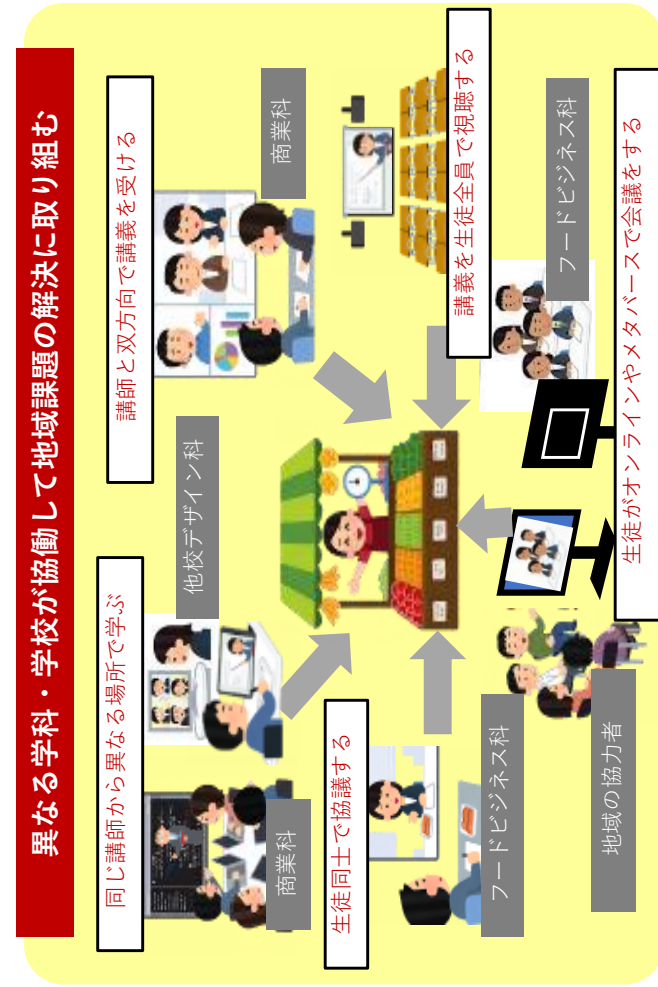
新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）

ふりがな	いまりじつぎょうこうとうがっこう				②所在都道府県	佐賀県
①学校名	伊万里実業高等学校				③設置形態	公立
					④課程別	全日制
					⑦教職員数	
⑤生徒数	1年	2年	3年	計	教員数：46 職員数：6	
生物科学科	40	39	37	116		
森林環境科	30	20	24	74		
フードビジネス科	40	40	40	120		
商業科	40	34	38	112		
情報処理科	40	36	33	109		
計	190	169	172	531		
⑥学級数	1年	2年	3年	計		
生物科学科	1	1	1	1		
森林環境科	1	1	1	1		
フードビジネス科	1	1	1	1		
商業科	1	1	1	1		
情報処理科	1	1	1	1		
計	5	5	5	5		
⑧構想名	文理融合型教育による「いまりん6次化」実践プログラム					
⑨構想の概要	多様で幅広い視点を持ち、課題解決に向け能力を発揮できる人材を育成することを目的に、地域課題の解決に向けて異なる学科・学校がそれぞれの専門性を生かした文理融合型の学びを実践するカリキュラム開発を行う。また、デジタル技術を活用して、専門的知見や先端技術を有する人材や地域人材による質の高い教育や生徒間の協働的な学びを時間的・空間的な制限を超えて実践する。					
⑩その他学校の特徴	本校は、佐賀県立高等学校再編整備により、伊万里農林高等学校と伊万里商業高等学校が統合され、2019年4月に、農業及び商業を学ぶ実業系の高等学校として開校した。 本校では特色ある教育活動として「農業科及び商業科のコラボレーション（連携・共同作業）による教育活動」を掲げ、両科による商品の共同開発のほか、農業科による加工品のブランド化及び商業科による販売促進活動等、体験的な教育活動を展開している。					

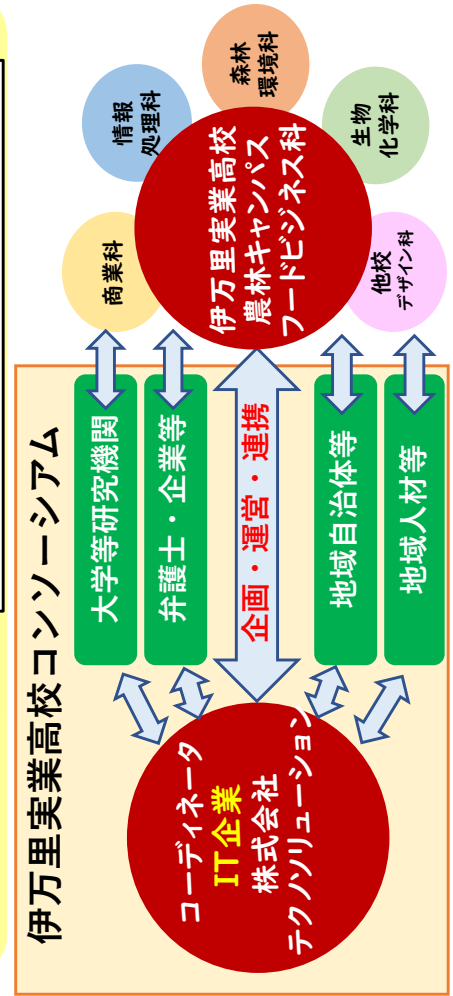
Ⅶ 文理融合型教育による「いまりん6次化」実践プログラムの3年間のイメージ図

佐賀県教育委員会 令和5年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）

【佐賀県立伊万里実業高等学校】県立高校6次化実践プログラム



- 背景**
- 質の高い教育のためのオンライン活用の実践が必要
  - 文理融合型の学びを進める上で異なる学科・学校の専門性の協働が必要
- 目的**
- Society5.0に対応するべく、多様で幅広い視点を持ち、課題解決に向けて能力を発揮できる人材の育成
- 方法**
- 【デジタル技術を活用した新しい教育方法の導入】
- ①異なる学科・学校の専門性や特色を生かした文理融合型の学びの実践
  - ②専門的知見、先端技術を有する人材や地域を支える人材の積極的な活用



	令和5年度	令和6年度	令和7年度
カリキュラム開発	デジタル技術を活用した、関係機関や地域機関との連携による学習効果を検証	地域課題を地域の学校が協働する文理融合型の実践を通してその有効性を検証	質の高いオンライン学習と文理融合型カリキュラムの有効性を総合的に検証
県内への展開	オンライン学習による総合的な探求の時間的効果的な実践について提案	専門高校に対する文理融合型学習の提案	学校同士がコラボレーションして行う総合的な探求の時間的効果的な実践

【佐賀県立伊万里実業高等学校】文理融合型教育による「いまりん6次化」実践プログラム

目的

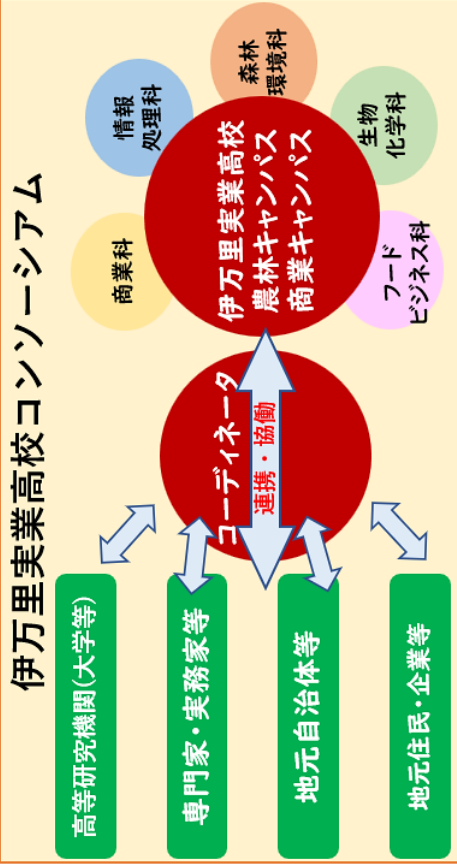
- 地域から求められる専門高校として、地域資源を活用した「6次産業化」を実践できる人材育成が必要
- 多様化する進路ニーズに適応した学びが必要

カリキュラム概要

6次産業化人材を育む文理融合型の学科・教科等横断による専門教育を推進する実業系高等学校の新しい教育モデルの確立と普及

新しい教育方法

学科の枠を超えた学び合いと外部講師の活用



令和7年度の目標

○今年度は、学科を超えた学び合いを推進し、生徒が多様な専門分野への関心を広げるとともに、専門性を組み合わせて活用できる力を育成する。  
○外部講師の活用を強化し、学校の枠を超えた視点や実社会の知見を学ぶ機会を充実させることで、地域や社会の課題に主体的に向き合う思考力と実践力の育成を図る。

取り組み状況

【5学科共同課題研究（竹プロ）】  
全学科から総勢26名の生徒が協力がしながら、放置竹林問題の解決に向けて学科横断型の研究活動に取り組み、協働的な課題解決に向かう力を育成することを目指している。  
【課題研究発表会】  
農業及び商業の実践的で体験的な学習活動を行う課題研究の成果を発表することによって、農業と商業を学んだ生徒同士の学び合いを目指している。  
【ビジネスプランコース】  
ビジネスプランコースでは、1・2年次に学習した簿記、マーケティング、情報処理などの商業科目を総合的に活用し、専門科目への理解を多面的に深める授業を実施した。また、生徒が自ら課題を設定し主体的に学習を進めることで、将来に活かせる実践的スキルを習得を目指した。加えて、外部講師を招いた課題研究を実施し、地域産業振興に寄与し得る人材育成の促進につながった。

成果と課題

○放置竹林問題という複合的課題に向き合う過程において、学科ごとの専門性を持ち寄り協働することとで、実践的な問題解決力を高めることができた。  
○外部講師やコーディネーターと連携した授業では、生徒の多様な価値観や発想が引き出され、個々の特徴を活かした学びに発展した。  
○今後は、外部講話や企業訪問を積極的に取り入れ、生徒の思考を深めていく予定である。これらの取組を継続することで、地域課題に主体的に向き合い、自立して問題を解決できる生徒の育成を期待している。



文部科学省指定事業

令和7年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）」

文理融合型教育による「いまりん6次化」実践プログラム（第3年次）

発行年月 令和8年3月

発行 佐賀県立伊万里実業高等学校

E-mail [imarijitsugyoukoku@education.saga.jp](mailto:imarijitsugyoukoku@education.saga.jp)

U R L <https://www.education.saga.jp/imarijitsugyoukoku>

【農林キャンパス】

〒 848-0035

伊万里市二里町大里乙 1414 番地

TEL 0955-23-4138(代)

FAX 0955-20-1002

【商業キャンパス】

〒 848-0028

伊万里市脇田町 1376 番地

TEL 0955-23-5191(代)

FAX 0955-20-1004